

# 文化芸術懇談会「みんなで作る新しい博物館」を開催しました

平成20年12月14日（日）に三重県男女共同参画センター フレンテみえで、文化芸術懇談会「みんなで作る新しい博物館」～未来を拓く子どもたちのために～を開催しました。当日は、親子連れなど約240人の方が参加され、みなさんから好評をいただきました。鈴鹿市の神戸ジュニアリコーダークラブの子どもたちのオープニング演奏ではじまり、野呂昭彦三重県



知事のあいさつに続いて、青木保文化庁長官の「社会の中心に博物館空間を」と題した講演がありました。このあと、再び神戸ジュニアリコーダークラブのすばらしい演奏をはさんでパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションは、青木保文化庁長



官（文化人類学者）と染川香澄さん（ハンズ・オン プランニング代表 京都市生涯学習振興財団理事）、長谷川雅美さん（東邦大学理学部教授 元千葉県立中央博物館生態環境研究部上席研究員）、中村幸昭さん（鳥羽水族館名誉館長 三重県博物館協会会長）の4人のパネリストに、二神律子さん（中部学院大学教授・前三重中京大学教授）をコーディネーターとして迎え、「博物館に対する思い、博物館のあるべき姿」や「子どもと博物館の関わりについて」、「誰もが楽しめる博物館とは」などを話題に、それぞれの立場で意見を述べていただきました。

当日、パネリストの方からいただいた、博物館に関する主な思いをいくつか紹介します。



ただ面白いとか、目を引くというのではなくて、例えばハンズ・オンという触れる展示のように、その動作をしたときに、自分でよく考えて、すとんと腑に落ちる、あるいはぐっと何か引っかかって、そのことが家に帰っても気になり、話題にしたり、もっと知りたくなる。そういうきっかけとなるのが博物館です。（染川さん）



博物館の教育活動が一貫して求めるものは、「戦争は絶対駄目」ということです。2番目は、人間という名の動物は、大自然の中に囲まれて生かされているのだという感謝の気持ちを持つこと。それからもう一つは、命の大切さです。（中村さん）



私は、以前に勤務していた博物館で、「カエルのきもち」という企画展をしました。今、里山などの豊かな体験ができる場所がどんどん減ってきているということを、家庭の中で伝え合う、つまり舞台装置として博物館の展示をしようと思いました。ですから、展示室の出口で、「お父さん、カエルを見にいきたくない」という声をきいたとき、展示をしてよかったなと思いました。（長谷川さん）



子どものためと言うのは簡単ですが、子どもが何を考えているのかということは、親には全然わかりません。親は、子どもは自分の小さいころとまったく同じものだと思っているから、そこに大きな間違いがあるのです。「子どもは完全に異文化を持った他者だ」という視点で子どもを見ながら、子どもがどういうことをやったら楽しいだろうか、あるいは本当に伝えようとする世界に引き込まれるだろうかと考えていかななくてははいけません。（青木長官）

いただいた素晴らしいご意見は、県民のみなさんといっしょに博物館づくりに生かしていきたいと思えます。

第2回の新博物館シンポジウムは平成21年3月21日（土）に津市河芸中央公民館で開催予定です。詳しくは、新博物館整備プロジェクトのホームページ（<http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/>）をご覧ください。